

「できると思うから挑戦するのではなく、やりたいと思うなら挑戦すればいい。」

学生時代に野球をやっていた私が尊敬する野球選手はイチロー選手だ。彼は、アメリカメジャーリーグにわたり、大柄なアメリカ人の中、彼らと比較して華奢（きゃしゃ）な体でメジャーリーグベースボールに挑戦した。その類稀（たぐいまれ）なバットコントロールとスピードで年間最多安打 262 本というメジャーリーグ新記録を作り、彼の守備位置のライトフィールドは背番号にちなんでエリア 51 と呼ばれ、彼の強肩によって敵の無駄な進塁を許さない特別なエリアだとされた。そんなイチロー選手は、2019 年の引退会見の際、次のような言葉を残している。

「どこからが成功で、どこからがそうじゃないのかは判断できない。だから成功という言葉は僕は嫌いなんですけど、新しい世界に挑戦するということは大変な勇気だと思うんですけど、ここはあえて成功と表現しますが、成功すると思うからやってみたい、それができないと思うからやらない、という判断基準では後悔を生むだろうと思う。やりたいならやってみればいい。できると思うから挑戦するのではなく、やりたいと思うなら挑戦すればいい。そのときにどんな結果が出ようと後悔はないと思う。」(<https://meigen.info/>)

彼の毎日のルーティーンは有名で、朝食には必ずカレーを食べ、誰よりも早く球場に到着し、入念にストレッチを行ってから、チームの練習に加わる。そして、打席に入る時も右手に持ったバットを投手に向けて高く掲げ、左手でユニフォームの右肩の袖の辺りを触り、まるで侍のように獲物に狙い澄ませる。投手が投げたボールは、吸い付くように彼のバットが捉え、見事にフィールドにはじき返される。バットがボールを捉えた瞬間、1 塁方向に駆け出し、平凡な内野ゴロでも内野安打にしてしまう脚力があつた。

「特別なことをするために特別なことをするのは、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。」それが徹底したルーティーンへのこだわりだった。そして、「小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道。」と言い、彼のプロ野球（NPB/MLB）における通算安打が通算 4367 安打でギネス世界記録に認定されている。(<https://meigen.info/>)



(写真:<https://prcm.jp/pic/original-image/id/7fKJoda?keyword=%E3%82%A4%E3%83%81%E3%83%AD%E3%83%BC&page=1>)

「準備というのは、言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得るすべてのことをこなしていく。」人事を尽くして天命を待つような姿勢もルーティーンにこだわる要素だったのだろう。

確かにイチロー選手は特別な人だ。誰もがそんな世界的な人物にはなれない。ただ、挑戦の姿勢、準備の在り方、凡事徹底など、学ぶところが多いのではないか。彼はこうも言う。「努力せずに何かできるようになる人のことを『天才』というのなら、僕はそうじゃない。努力した結果、何かができるようになる人のことを『天才』というのなら、僕はそうだと思う。人が僕のことを、努力もせずに打てるんだと思うのなら、それは間違いです。」(<https://meigen.info/>) と人知れず努力を重ねた結果、稀有（けう）の存在になった。

比べるのは、他人ではなく、過去の自分だ。努力がすべて報われるとは限らない。しかし、大切なことは、どれだけ自分で意識して成長しようとしているかということだと私は思う。その過程が大切なのだ。

寝るときはネックウォーマーを・・・

寒さが本格化してきた。朝、5 分でも長く布団に入っていたいと思う季節が到来してしまった。布団から出る時間が遅くなると、当然家を出る時間が遅れ、学校に到着する時間も遅くなってしまう。「遅刻ゼロの高校」を目指す私たちにとって、大きな壁だ。夜はたとえ 5 分でも 10 分でも早く布団に入り、起きる時間を見据えて動くことだ。布団に入る際、身体は布団で温かいが首元が無防備になっている。風邪は上気道炎という診断がつけられることが多く、喉を冷やすことから炎症を起こし、風邪症状につながる。風邪症状はインフルやコロナの呼び水となる。寝る際のネックウォーマーの着用で防ぐ可能性がある。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩